学校法人 東京成徳学園
TOKYO SEITOKU

impress
An impress Group Company

各　　位

2026 年 11 月 26 日
株式会社インプレス
学校法人東京成徳学園

創立 100 周年を迎えた東京成徳の 10 年にわたる ICT 教育の実践と 6 年間の学びをまとめた公式ガイドブック『できる東京成徳大学中学・高等学校』を 11 月 26 日に発売

インプレスグループでIT・デザイン関連メディア事業を展開する株式会社インプレス（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：高橋隆志）は、学校法人東京成徳学園（所在地：東京都北区、理事長：木内秀樹）の協力のもと、東京成徳大学中学・高等学校（中高一貫部、所在地：東京都北区、校長：木内秀樹）における10年間の教育実践と6年間の成長プロセスを紹介する公式ガイドブック『できる東京成徳大学中学・高等学校 iPadとICTで育む21世紀のグローバル人材』（著：赤池淳子 ＆ できるシリーズ編集部）を、2026年11月26日（木）に発売いたします。



■日々の授業から留学・探究まで――東京成徳で過ごす「6年間の学びの軌跡」

本書は、2026年に創立100周年を迎えた東京成徳学園の東京成徳大学中学・高等学校（中高一貫部）が、10年にわたって積み重ねてきたICT教育とグローバル教育の実践を、6年間の学校生活に沿ってまとめた公式ガイドブックです。同校への入学を検討している受験生とご家庭、在校生とその保護者、卒業生・学校関係者に向けた内容です。同校が新たに掲げる教育ビジョン「ともに挑み、ともに育つ。」のもとで、生徒たちがどのように学び、成長していくのかを紹介しています。

■「できる」レッスン形式でたどる、学校生活と自律への成長ステップ

本書は、東京成徳大学中学・高等学校（中高一貫部）における中1から高3までの6年間の学校生活を、時系列順のレッスン形式で紹介しています。Apple Distinguished School（ADS）認定校としてのiPadや生成AIの活用をはじめ、中2でのセブ島全員留学、中3での「ニュージーランド3カ月学期留学」または「国内グローバルカリキュラム」の選択、プログラミング教育（レゴ・Python）、探究学習（Diversity Seminar）、データサイエンス（理数探究）、実地踏査型研修旅行に至るまで、生徒が自律的な学習者へと育っていく道筋をたどれる構成となっています。

■本書は以下のような方におすすめです

- **入学を検討中の受験生・保護者の皆様へ**
  「iPadを使った授業についていけるか」「6年間でどんな学校生活を送るのか」といった疑問に向けて、入学直後に取り組むiPadの活用法や情報モラルのルール、ラーニングコモンズなどの学びの空間をあらかじめ把握できます。

- **在校生とご家庭の皆様へ**
  これから迎える学年の行事や学び、留学の選択について前もって知る手引きとして活用できます。

- **卒業生・学校関係者の皆様へ**
  創立100周年を迎えた東京成徳における、ICT教育10年のあゆみをまとめた記録として参照できます。

※本書は東京成徳大学中学・高等学校の教育内容を紹介する書籍です。iPadや各種アプリの操作を体系的に解説したものではありません。

■紙面イメージ


レッスン 04
◆Year 1：iPadを学びの相棒にしよう
iPadで表現力を身につけよう
Keynote・Adobe CC
学校生活編 第2章 自律した学習者になる6年間
東京成徳の生徒たちは、授業の中でiPadをどう活用しているのでしょうか。写真を活用する「フォトウォーク」から、「Keynote」によるプレゼンまで、授業での活用事例を交えて紹介します。
フォトウォークで表現の型を身につける
iPadは生徒の表現力を高める道具として大きな力を発揮します。生徒たちは、活用の第一歩として身近な校内をめぐり、気になる風景をiPadで撮影するフォトウォークに取り組みます。
レッスン02でも紹介した数学の事例は「校舎から幾何学的な要素を見つけて書き込む」というものでした。
そのほか、英語では「環境問題を考える」をテーマに、写真に英語のセリフを書き込むなど、さまざまな教科でこの手法が使われています。
生徒たちは、この「観察し、自分なりの意味を見出し、表現する」という手順を繰り返し経験することで、アイデアを形にする「表現の型」を自分のものにしていきます。
フォトウォークで校舎から幾何学的な要素を見つけて書き込む
使いこなしのヒント
写真のうまさではなく視点や気づきを深める
フォトウォークで大切なのは、写真のうまさではありません。「どんな視点で気づきを得たか」「その気づきを言葉や記号でどう相手に伝えるか」という思考のプロセスです。写真の撮影範囲や対象については、事前に教員から指導があり、安全面・プライバシー面にも注意を払ったうえで実施されています。
使いこなしのヒント
iPadでの写真撮影で表現のハードルを下げる
写真撮影からスタートするこの手法は、白紙のノートに1から表現するよりもハードルが低いため、表現に苦手意識のある生徒も自然と取り組みやすくなります。さらにiPadの活用がこの一連の作業を手軽にし、何度も簡単にリトライできることで短期間で経験値を上げることに役立っています。
iPadを手に校内の気になる箇所を撮影して回る生徒たち
24 できる


Keynoteによる発表の機会が相手意識を育てる
東京成徳の生徒たちは、自分の考えを発信するためのツールとしてiPadのプレゼンアプリであるKeynoteを使いこなしています。
例えば、社会の授業では「もし当時SNSがあったら」という課題に取り組みます。歴史上の有名な絵画や資料を架空のSNS画面に仕立て、コメントやハッシュタグをつけていくという内容です。シンプルなテーマほど考察は深くなり、自分自身のフィルターを通すことで、教科書の知識を自分事として捉え直します。
生徒たちは、各自の考察結果をKeynoteで発表することで、相手に伝わる表現を自然と意識するようになります。写真や文字の大きさなどの基本的な表現手法も身についていきます。
社会では歴史的な場面の絵をSNSの投稿風にして表現
スライドをつくったら皆の前で発表。伝わる表現が次第に身についていく
使いこなしのヒント
Keynoteでスライド資料を直感的に作成する
Keynoteは、iPadやiPhone、MacBookなどのほとんどのApple製品にインストールされているApple製アプリです。テキストや写真を使い、本格的なプレゼン用のスライド資料の作成が可能で、複数人での同時編集も可能です。Microsoft OfficeシリーズのPowerPointと互換性があり、.pptx形式のファイルの読み込み・編集・書き出しにも対応しています。
直感的な操作でスライド資料を作成できるKeynote
使いこなしのヒント
読み手への配慮と情報を要約する力を同時に育む
ハッシュタグや短いコメントを書く体験を通して、読み手の気持ちや反応を思いやる意識も高まっていきます。ほかにも「聖徳太子のキャッチコピーを考える」というテーマでは、文字数に制約のある中で、「本質を凝縮する」という表現力が育まれます。
何を残して何を削るか、要約する力が問われる
04 Keynote・Adobe CC
次のページに続く
できる 25

入学直後から始まるiPadを使った学びの様子。校内を巡るフォトウォークやKeynoteでの発表を通じ、表現の基礎を身につけていくプロセスを紹介



レッスン
08 グローバル教育で世界に飛び出そう

NZ学期留学・国内グローバルカリキュラム

中学3年の3学期、生徒たちは約3カ月間の「NZ学期留学」か、国内で学びを深める「国内グローバルカリキュラム」を自ら選択します。どちらを選んでも、確かな語学力と自律心が身につきます。

「NZ留学」か「国内グローバル」か

東京成徳では、中学3年間の集大成として、約3カ月間のNZ学期留学または国内グローバルカリキュラムのいずれかを生徒自身が選択します。どちらのカリキュラムでも、コミュニケーションツールとしての英語力を高め、グローバルマインドやチャレンジ精神を学べます。あくまで生徒本人の選択が尊重され、学年の約2/3がニュージーランドへの学期留学を選びます。
このタイミングで学期留学を選択しなかった場合でも、長期休みに実施される短期海外プログラムや、3カ月～1年間の留学プログラムに参加できます。単位認定も可能で、生徒は高校進学後も、海外で学ぶ機会があります。生徒それぞれの希望に合わせて、東京成徳での6年間を通した海外体験をデザインすることができます。

自ら意思決定 → NZ学期留学 / 国内グローバルカリキュラム → 共有・融合
中学3年・3学期 → 高校課程

NZ学期留学と国内グローバルカリキュラムのどちらかを選択

3カ月の学期留学で語学力と自律心を育む

使いこなしのヒント
NZ学期留学が、生徒の自主的な選択とされている理由は?

毎年、東京成徳の保護者の多くはNZ学期留学の参加を希望しますが、生徒本人には迷いや不安があることも少なくありません。1人で長期間海外で過ごす苦労を乗り切るためには、自ら留学を選択したという意識が非常に重要です。そのため生徒は自らの意思で参加を決めることができ、不安がある場合もじっくり相談しながら納得して選択することができます。

使いこなしのヒント
2003年度にスタートし年々希望者が増加

東京成徳中学のニュージーランド学期留学は2003年度にスタート。初年度は17名の参加で始まり、現在は学年の過半数にあたる90名程度が参加しています。兄弟姉妹でその効果を実感したという家庭も多く、このNZ学期留学が入学の決め手となったという生徒も多くいます。

学校生活編 第2章 自律した学習者になる6年間

40 できる

ニュージーランドの現地校に約3カ月間「学期留学」

NZ学期留学に参加する生徒たちは、現地の中学校3年次に約3カ月間編入します。中高一貫校にとって3年次の3学期は、高校受験対策に時間を取られることがなく、長期間時間を取りやすい絶好のタイミングです。生徒たちは2学期までに中学3年分の学習内容を修了し、高校進学後の学びのベースを整えたうえで安心してNZ学期留学に臨みます。
東京成徳の生徒たちが留学する現地校はニュージーランド内のいろいろな地域に確保されています。多文化・多民族国家であるニュージーランドで多様性を尊重する心を養い、自らの枠を大きく広げていきます。

ホームステイ先には1家族に日本人1名がルール

留学中、生徒たちは現地の家庭にホームステイ。1家庭につき日本人は1人だけという環境で過ごします。最初から英語が問題なく聞き取れるという生徒はごく少数で、想像以上に自分の英語が通じないという経験から始まります。毎日ホームステイ先から現地校に通い、英語で授業を受講。英語のシャワーを浴び続けることで徐々に理解できる単語が増えていき、1カ月ほどすると「共用語としての英語」をある程度使いこなすようになります。

ホームステイ先でも学校でも英語漬けの日々

学期留学の本質的な目的は自律体験

NZ学期留学に参加する生徒たちは、不慣れな海外で長期間、保護者の手助けなしに過ごします。自ら考えて行動し、困ったときには周囲に助けを求めながら日々を乗り越えることで、揺るぎない自律心と積極性を身につけていきます。語学力以上にこの「自律の体験」こそが、生徒たちにとって最大の種となります。
帰国後の生徒たちは、学校生活でもやりたいことがあれば自ら動くようになります。特にこれまで引っ込み思案だった生徒ほどその変化は大きく、表情や姿勢からも大きな自信が感じられます。

使いこなしのヒント
留学前にどこまで英語力をつける必要がある?

英会話がそれほど得意でなくても、ホームステイ先の家庭は生徒たちが最初は英語に不慣れな状態だと分かって対応してくれるため、いきなり生活に困るようなことはありません。また、逆に現地にはさまざまな国からの留学生がおり、コミュニケーションツールとしての英語を実践の中で少しずつ自分のものにしていきます。

使いこなしのヒント
保護者にとっても価値ある体験に

生徒たちは家族のもとを離れ、親の手助けに頼らず過ごす3カ月間を通して、大きな精神的成長を遂げます。自分1人で壁を乗り越えるこの体験は、生徒たちに「自分の力でやりきった」という強い自信と自律心をもたらします。見守る保護者にとっても、我が子の確かな成長を実感する貴重な機会となります。

使いこなしのヒント
学校内ではスマートフォンの利用がNGに

スマートフォンやタブレットには自動翻訳の機能も搭載されていますが、ニュージーランドでは学校内でのスマートフォンの使用が禁止されています。そのため、東京成徳の生徒たちも「英語はしゃべらずに翻訳ツールでやりすごす」ことはできません。自力で英語を使いこなさなければならない場面の連続になり、英語での対応力が磨かれます。

08 NZ学期留学・国内グローバルカリキュラム

次のページに続く

できる 41

中2のセブ島2週間語学留学を経て、中3の3学期に「ニュージーランド3カ月学期留学」か「国内グローバルカリキュラム」かを生徒自身が選択する仕組みと現地での学びを紹介

■本書の構成

第1章 東京成徳の学びをはじめよう＜入学準備編＞
レッスン01：6年間の学びの全体像をつかもう／レッスン02：iPadを授業で使いこなそう／レッスン03：デジタル学習のルールを身につけよう

第2章 自律した学習者になる6年間＜学校生活編＞
レッスン04：iPadで表現力を身につけよう／レッスン05：プログラミングの基礎を学ぼう／レッスン06：セブ島で全員留学を体験しよう／レッスン07：自然の中で仲間と協働しよう／レッスン08：グローバル教育で世界に飛び出そう／レッスン09：自分だけの問いを深く探究しよう／レッスン10：社会課題を解決するアプリを開発しよう／レッスン11：行事の企画・運営に挑戦しよう／レッスン12：データを活用して探究を深めよう／レッスン13：自ら問いを立てて論文を執筆しよう／レッスン14：世界とつながる学びを実践しよう／レッスン15：最上級生として学校をリードしよう／レッスン16：自律した学習者として進路を切り拓こう

第3章 学びを支える環境とサポート＜施設編＞
レッスン17：キャンパスの学びの空間を探検しよう／レッスン18：Apple Distinguished Schoolを知ろう／レッスン19：安全・安心なデジタル学習を支えよう／レッスン20：ICT教育10年のあゆみと未来を知ろう

■書誌情報



書名：できる東京成徳大学中学・高等学校　iPadとICTで育む21世紀のグローバル人材
著者：赤池淳子＆できるシリーズ編集部
発売日：2026年11月26日（木）
ページ数：80ページ
サイズ：B5変形判
定価：1,320円（本体1,200円＋税10%）
電子版価格：1,320円（本体1,200円＋税10%）※インプレス直販価格
ISBN：978-4-295-02615-0

◇Amazonの書籍情報ページ：
https://www.amazon.co.jp/dp/4295026158
◇インプレスの書籍情報ページ：
https://book.impress.co.jp/books/1125101130

■著者プロフィール

赤池淳子（あかいけ　じゅんこ）

IT系の出版社に10年間勤務し、パソコン誌やカメラ誌の編集、書籍づくりなどに携わる。独立後は20年以上にわたり、IT系の解説記事から家電、旅行まで幅広いジャンルを執筆。近年はICTに関する学校取材を中心に、企業のオウンドメディアや広告記事の編集・執筆も手がける。

【学校法人東京成徳学園】https://www.tokyoseitoku.ac.jp/
学校法人東京成徳学園は、大学院・大学・短期大学・高等学校・中学校・幼稚園を擁する学校法人です。
●東京成徳大学中学・高等学校（中高一貫部）https://www.tokyoseitoku.jp/js/
所在地（中高一貫部）：〒114-8526 東京都北区豊島 8-26-9
校長：木内秀樹
創立：1926 年

【本件に関するお問合せ先】
株式会社インプレス　広報担当：丸山
E-mail: pr-info@impress.co.jp URL： https://www.impress.co.jp/

学校法人東京成徳学園　法人本部経営企画部
TEL：03-3911-2411
E-mail：kouhou@tokyoseitoku.ac.jp URL： https://www.tokyoseitoku.ac.jp/

以上

【株式会社インプレス】 https://www.impress.co.jp/
シリーズ累計 8,000 万部突破のパソコン解説書「できる」シリーズ、デザイン・グラフィック関連の書籍ブランド「MdN」、「デジタルカメラマガジン」等の定期雑誌、IT 関連の専門メディアとして国内最大級のアクセスを誇るデジタル総合ニュースサービス「Impress Watch シリーズ」等のコンシューマ向けメディア、「IT Leaders」をはじめとする企業向け IT 関連メディアなどを総合的に展開・運営する事業会社です。IT・デザイン関連出版メディア事業、およびデジタルメディア＆サービス事業を幅広く展開しています。

【インプレスグループ】https://www.impressholdings.com/

株式会社インプレスホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役：塚本由紀）を持株会社とするメディアグループ。「IT・デザイン」「音楽」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。